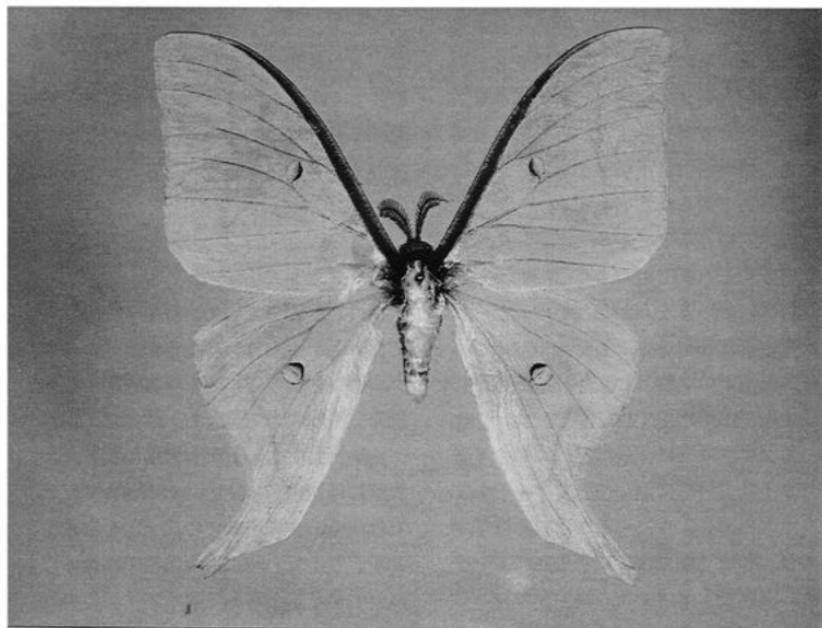


市川自然博物館

6・7月号 (通巻第56号) だより

いちかわの  Ⅱ 雑木林で生活する蛾
ヤママユガの仲間



△市内の雑木林に生息しているヤママユガの仲間の中で唯一、
翅が非常に美しい水色をしている蛾——「オオミズアオ」。
そのため、別名「蛾の女王」と言われています。写真はオス。

いち かわの 蛾 II

雑木林で生活する蛾 ヤママユガの仲間

梅雨から真夏にかけての蒸し暑い季節、街燈などの明かりには夜行性の昆虫が飛来します。都市化が進んだ市川では、自然豊かな地域のように多様な昆虫が集まるというわけにはいきませんが、それでも、時々興味深い昆虫と出会うことがあります。大きな翅でひときわ目を引くヤママユガの仲間も、そんな昆虫のひとつです。

●カイコに近い仲間

ヤママユガの仲間は、ヤママユガ科というグループに属します。このグループには大型の蛾が多く、市内で見られる大型の蛾も、その大半がこの科に属しています（国内最大の蛾であるヨナグニサンもヤママユガ科）。また、外見的には多くの種類で翅に目玉模様があることが、特徴として知られています。

世界的に見ると、各地で生息が知られていて、これまでにおよそ 1,300種類が記録されています。ただ、その大部分は熱帯の森林地帯を主としたものなので、日本国内での記録はわずか12種類に過ぎません（市川市内では7種類）。

ヤママユガ科は、分類学的にはカイコ（カイコガ科）に近い仲間です。そして、カイコと同じように生糸がとれる種類があり、各地でさまざまに利用されています。国内でもヤママユガ科のヤママユのマユから取れた生糸は「天蚕」の名で知られ、その緑がかかった糸の風合いを生かして、着物などに仕立てられています。

●市内でよく見られる種類

市内で記録があるヤママユガ科の蛾は、クスサン、オオミズアオ、ヤママユ、ウスタビガ、ヒメヤママユ、シンジュサン、エゾヨツメの7種類です。このうち、比較的よく見られるのは次の3種類で、市北部の雑木林の周辺その他、学校や公園の植栽木でも、時々発生することがあるようです。

1. クスサン

幼虫が変わっていて、背中一面に長く白い毛が生えていることから「シラガタロウ（白髪太郎）」と呼ばれています。また、クリの木で発生した時には「クリケムシ（栗毛虫）」とも呼ばれますが、実際には幼虫のエサとなる木はクリだけではなく、クヌギなどのブナ科の樹木やヌルデなどで、時には街路樹のイチョウに発生することもあるようです。このため、市内のヤママユガ科としては最も数が多く見られ、秋9月上旬～10月下旬に成虫が出現します（図1）。

2. オオミズアオ

市内で見られるヤママユガ科の蛾のうちでは最も美しい種類です。他の種類が茶色を基調にした色をしているのに対しオオミズアオの翅色は水色あるいは黄緑色と美しく、細長く伸びた優雅な翅の形と相まって、たいへん印象的です。闇夜を飛翔するオオミズアオが月明かりに照らしだされる神秘的な光景は、一度見たら忘れることができないほどで、そのためこの蛾を「蛾の女王」などと称する人もいるようです。

成虫の発生は、市内では年2回、おおむね4月中旬～6月中旬と、7月上旬～9月中旬です。幼虫のエサとなる樹木は、雑木林に生息するクヌギ、コナラ、イヌシデといった種類で、稀な例として植栽されているサクラも食べることがあります(図2)。

3. ヤママユ

市内の蛾の中では、最も大きな種類です。茶色の翅を広げて建物の壁などにベタッと止まっている様子は、好き嫌いとはもかく、誰の目にもとまる存在感があります。

成虫の発生は、市内では7月下旬～8月下旬です。クヌギ、コナラ、クリなどのブナ科が多い雑木林で主に見られます(オオミズアオ同様、サクラで発生することが稀にあります)。成虫の翅は茶色をしています、個体変異があり、かなり黄色っぽいものや、逆に濃い褐色をしたものなど様々です(図3)。

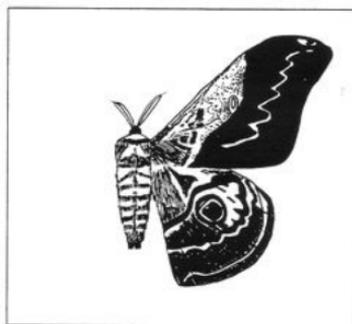


図1：クスサン(開長10～13cm)



図2：オオミズアオ(開長8～10cm)

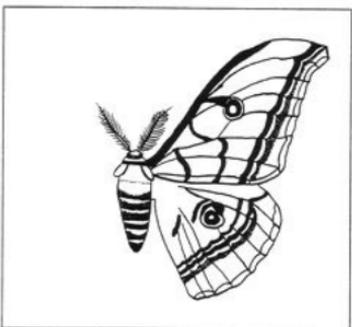


図3：ヤママユ(開長11～15cm)

●樹木の葉を食べる

ヤマムユガ科の蛾は、すべての種類で幼虫が樹木の葉を食べることが知られています。主な食樹としては、ブナ科、クスノキ科、ニガキ科、ミカン科、カバノキ科、ニレ科、カエデ科、ウルシ科、ミズキ科、クルミ科、エゴノキ科、バラ科などに属する樹木が挙げられ、多くの場合、何種類もの樹木をエサとする「多食性」で、「単食性」の種類は少ないと言われています。

市内で記録されている7種類は、いずれもクヌギ、コナラ、クリといったブナ科の樹木を好み、そのため、それらが多く生育する雑木林で多く見られます。針葉樹を食べる種類は知られておらず、実際、スギの植林地などではヤマムユガ科の蛾を見ることはありません。

●雑木林が生活の場

ヤマムユガ科の蛾は、成虫になるとエサを取ることがなく、口も退化します。ということは一生の間でエサを取るのには幼虫の時期だけということになりますから、生活の場所も必然的に幼虫のエサがある場所ということになります。市内の場合、雑木林がその場所にあたります。

市内のヤマムユガ科の一生は、そのほとんどを雑木林に依存しています。卵を産み、幼虫が育ち、マユをつくってサナギになるのは雑木林で、成虫だけが時に林の外に出て街燈などに飛んで行きますが、それでも卵を産む時は再び雑木林に戻ります。雑木林という場所は、それだけでひとつのまとまった環境と見ること

ができ、雑木林だけで見られる動植物が多く知られていますが、市内のヤマムユガ科の蛾もそんな動植物のひとつとして見ることができるわけです。

●市内のヤマムユガ科の今後

かつては、市の中部の住宅街でも、街燈に飛来する大きなヤマムユガ科の蛾が見られたといえます。最近では、そういうこともなくなってしまいました。その理由は、やはり雑木林の減少に求めることができそうです。

今でも大町や大野町、柏井町一帯にはまとまった雑木林がありますが、市の中部に近いあたりでは、雑木林は少しずつ姿を消し、あるいは分断されたり規模が小さくなったりしています。翅があって飛ぶことができるとはいても、ヤマムユガ科の蛾の移動能力など知れています。生活の場となる環境が失われれば、ひとつたまりもありません。

広範囲に林が残っている大町公園でも、ヤマムユガ科の蛾を見る機会は、年をおうごとに減ってきています。かつては、夏になると動物園の建物に、毎朝のようにヤマムユガ科の蛾がベタッと止まっている姿が見られました。大町公園の施設自体が林を切り開いてつくられたものであまり大きなことは言えませんが、この数年、減少傾向にあるという感じは否めません。ヤマムユガ科の蛾には、ただ「大きい蛾」というだけではなく、雑木林という環境を指標する指標生物としての役割も期待できそうです。



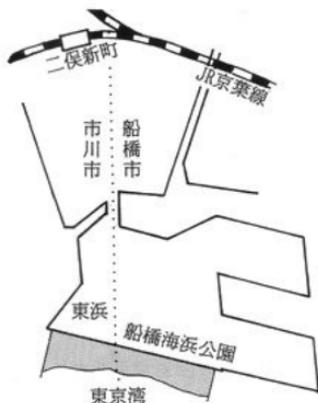
街かど自然探訪

おじゃまします!

ひがし ほん

東浜・海浜植物の観察ポイント!

工場地帯の中の東浜には、船橋海浜公園の浜から続く浜辺があります。もちろんここは人工の海岸ですが、市内で唯一東京湾に直接面した砂浜海岸でもあります。市川市の部分は、あまり整備されておらず荒れた感じですが、海浜植物の様子を観察するには、適した場所です。汀線ぎりぎりまで生えているイネ科のハマニンニクの群落を見ると、砂の中をほう地下茎や細いたくさんの根が砂を抱き込み、砂が移動するのを植物が防いでいるのがわかります。



RDB レッドデータブック

掲載種紹介



キンラン



灯籠
巻子植物 ラン科
ランク
絶滅危惧Ⅱ

初夏の雑木林で黄色い花を咲かせるラン科の草本です。市内ではいくつもの林で見ることができ、数少ない種類という印象はあまり受けません。しかし、樹林性のラン科植物は総じて環境悪化と乱獲のダブルパンチを受けていて、本種も人目につく場所にある株は掘り取られることが多いようです。

林を守ること、林の管理を適正に行うこと、そして野生生物に対するマナーを高めることが望まれます。

4月中旬から5月上旬、 葉がいっせいに更新しました。

このコーナーでは、街路樹のクスノキを舞台にそこで観察されるできごとを紹介いたします。今回は、葉の更新です。それは、クスノキの一年の中でももっとも印象的なできごとです。クスノキは常緑樹とはいうものの、年一回、古い葉をいっせいに落として新葉を伸ばします。ごく短期間に瑞々しい緑に移り変わる様子は、クスノキならではの美しさです。

(情報提供：水垣麻理子さん)



ただいま

ホームページ発信中!

Let's access!!

[<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/>]

「博物館だより」のバックナンバー

自然博物館のホームページには、「博物館だより」のすべての号が収録されています。創刊号のほか、梨の特集号やトンボを扱った号、スズメバチの号など、すでに在庫切れとなった号もご覧いただくことができます（初期のころの号を見られるのは恥ずかしいのですが）。

レイアウトは、電子媒体の特性に応じた組み換えを行っています。号によっては、カラー写真を参照できるという電子版ならではの楽しみもあります。

翅と楯眼に着目する

トンボ類は、均翅亜目（前翅と後翅がほぼ同形同大）と不均翅亜目（後翅が明らかに幅広い）とに大別され、均翅亜目にはイトトンボ類やカワトンボ類、不均翅亜目にはいわゆるトンボ型の翅をした種類（ヤンマ類など）が属しています。

身近に多い種類を分類すると、均翅亜目のうちイトトンボ科は、後ろにとがった不等辺台形の四角翼と2本の尾筋が特徴で、それがカワトンボ科では、長方形の細長い四角翼、多数の尾筋が特徴となります。

不均翅亜目では、左右の楯眼が異なるサナエトンボ科、一点で接するオニヤンマ科、広く接するヤンマ科とトンボ科に分けられます。ヤンマ科は前翅と後翅の三角翼の向きが同じで、トンボ科は異なります。

二重矢印 <トンボ類の着目点> (約34KB)

胸の模様は実用的

野外でのトンボ観察で実用的なのは、胸の模様による区別です。特にトンボ科に属するもの（アカトンボやシオカラトンボのなかま）は、草や木の枝、路上などにとまってじっとしていることが多いので、双翅で胸の模様をじっくり観察することができます。

トンボ科の胸には基本的に、黒線・第1黒線・第2黒線という3本の線があります。この3本の線上の黒条の有無や長さ、切れ方などで見分けていくわけです。

二重矢印 <アカトンボ類の胸の模様> (約15KB)

http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/depot/depot_27.htm ページ 2 / 7

電子版レイアウト例

わたしの
観察 ノート
 NO.38

◆動物園より

- ・ノウサギが迷い込みました(4/4)。
 須藤 治 (自然博物館)

◆南大野より

- ・1丁目でキジの鳴き声を聞きました。
 毎年3か所で聞いていましたが、今年
 は工事のため1か所のみです。悲しい
 ことです(3/25)。
 高畑道由さん (南大野在住)

◆北方遊水池付近より

- ・コチドリを3羽見かけました。(4/16)。
 今泉新二さん (北方在住)

◆国府台より

- ・アオバズクの第一声がきこえました。
 樺の木の突き出た枝のてっぺんです。
 テレビアンテナの上でも、鳴いている
 のを見ました(4/25)。
 秋元久枝さん (国府台在住)

◆4丁目の林にアオゲラの独特の音が響

- きました。姿を見せたのは雌1匹。た
 だ、明らかに少し離れたところで鳴く
 もう1羽の声も聞きましたので、少な
 くとも2羽いたと思います(3/21)。

◆小塚山市民の森より

- ・カラスに追われるツミの雛を見ました。
 今年も繁殖のため?にやって来ました
 (4/18)。

◆真間より

- ・3丁目でツバメ1羽を初認しました
 (3/29)。
 以上 根本貴久さん (菅野在住)

◆新田より

- ・自宅の庭のトロボ箱にヒキガエルが産卵
 したらしく、おたまじゃくしが泳ぎだ
 しました(3/30)。その後の雨降りの夜
 に上陸し(5/7)、今は鉢の下や雑草の
 下にいます。
- ・5丁目の国道の中央分離帯にナガミヒ
 ナゲシが群生していました。まだ他の
 野草の丈が低いので目立ちました
 (4/12)。
- ・5丁目の国道の隅の方で、ちょっと土
 があるような所でマメカミツレが咲い
 ていました(4/16)。

安藤ゆきのさん (新田在住)

◆中山法華経寺より

- ・参道をゴマグラチョウが一匹飛んでい
 ました(5/10)。

◆原木より

- ・ゴマグラチョウが一匹、真間川上空を
 飛んでいました。

以上 田中利彦さん (船橋市在住)

- ◎全般に気温が高めの春でした。その一
 方で日照は少なめでした。

10・11月の行事案内

※自然観察会

- ・親子向けコース…親子で楽しく身近な自然に親しみます。申込先着10組。
(小さなお子さん連れでの参加もどうぞ)
- ・一般向けコース…身近な自然をわかりやすく解説します。申込み先着20名。

| テーマ | 月日 | コース名 | 時間 | 場所 | 受付開始日 |
|--------|-----------|-------|--------|-------------|---------|
| 昆虫の観察② | 10月10日(出) | 親子コース | 9時30分 | 大町 | 9月15日～ |
| | 10月11日(日) | 一般コース | | | |
| 地形の観察 | 11月14日(出) | 親子コース | 11時30分 | 自然観察園 周辺 | 10月15日～ |
| | 11月15日(日) | 一般コース | | | |

〒申込み方法

各行事往復ハガキに参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号・返信のあて先を書いて、受付開始日（消印）以降に自然博物館までお申込ください。

11月15日(日)

大町レクリエーションゾーンフェスティバル

開催

自然博物館／少年自然の家／動植物園／観賞植物園
当日は各会場、楽しいイベントがいっぱいです。

自然博物館では、どんぐり人形づくりをおこないます。

時間 午後1時30分より4時まで

会場 自然博物館

申し込み、参加料は必要ありません。



市立市川自然博物館だより
第10巻2号（通巻第56号）
発行日／平成10年9月15日
編集・発行／市立市川自然博物館
〒272-0801 千葉県市川市大町284番地
電話047（339）0477
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/>